

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=2392200206-004PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念を、スタッフが目の届くところ(玄関先・タイムカードの所等)に掲げ又申し送り時に復唱することを実施することにより、どのような介護をしていかなければいけないか基本的な物として、スタッフが理解できるようにとこころがけております。また、より良い介護を目指し、もっとケアプランを身近に感じながら日常的な支援が出来るように改革をしております。グループホーム真清田は、外出の機会を月2回以上、季節に応じた行事を計画することにより、入居者様のADLの低下防止や楽しみを待って生活できるように努めております。今年は秋の遠足で、浜松に一泊旅行へ出かけることが出来ました。入居者様の皆さま、本当に喜ばれ、沢山の笑顔を見る事が出来ました。また、慰問の方々を定期的に招くことにより、外部との関わりや生活の質の向上に心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が交代して1年、理念は継続して新しい体制で動き出した。現管理者は、当ホームで開所時から介護業務に従事しており、職員間の意思疎通もスムーズである。さらに、利用者、家族からも信頼が厚い。理念の一つ「笑顔が溢れる」を実践し、家族から「入居の方たちが、いつも笑顔でいることが凄いなーと思う」等、称賛の声がある。
今年度、利用者自らを主体として、地域行事に参加する機会を多く持った。地域の防災訓練等に参加し、イベントでは地域の人とピラ配りを行った。毎月の地域の催し物には、住民に混じって折り紙等を楽しんでいる。運営推進会議には地域の独り暮らしの方々に案内状を持参して開催を知らせ、「勉強会」に参加する地域の人と利用者とは顔馴染みの関係ができる等、交流は多岐にわたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを盛り込んだ理念のもと、申し送り業務で理念の唱和や目に付くところに掲示し、常に意識を持つよう努めています。	ホーム独自の理念を玄関に掲示し、職員は毎日の唱和や、業務日誌にも添付して理念を意識するように取り組んでいる。しかし、職員が具体的に振り返る事例はない。	会議において理念を振り返る機会を持ち、更なる取り組みとして理念を展開したホームの具体的な目標(年度又は月次)を明確にし、職員が一丸となって取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩でご近所様と挨拶を交わしたり、喫茶レクではお店の方に車椅子の理解や受け入れをして頂き、積極的に外出を行い地域との繋がりを深めています。町内会行事への参加や、市などの広場に出かけ、地域の方と交流を図っています。	地域行事(防災訓練・盆踊り等)には利用者と共に参加し、子供の獅子舞がホーム内を回り、利用者や交流したり、夏休みのラジオ体操の場所になっている。地域の人がホームの庭に花を植える等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ADLを地域で活用して頂けるよう玄関に表示しました。運営推進会議では、地域の方にテーマを持った勉強会の参加と実際に事業所内の活動を見て頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お一人ずつ、ご意見をうかがっている、今後の取り組みに生かす様に取り組んでいます。参加出来なかったご家族様には、詳細内容を郵送している。	多彩なメンバーが集い、運営推進会議はホームからの報告、様々なテーマを設けての勉強会の場になっている。地域の独り暮らしの人、勉強がしたい利用者の参加がある。欠席家族には議事録を送付している。	勉強会を楽しみにしている会議となっているが、「目標達成計画」の進捗状況等を話し合い、率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター様より御案内頂く企画に関しては、積極的に参加して情報提供に努めている。運営に当たりわからない事があれば、役所に出向き確認をしている。	運営推進会議には市の職員、地域包括支援センター職員の参加により、ホームの状況は市役所の窓口で理解されている。ケア会議やグループホーム部会に出席して、関係機関とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は利用者様の安全を考えると施錠せざるを得ない現状ですが、これを当たり前と思わず、職員は疑問に思うことを話し合い厳しい目で取り組んでいます。	管理者・職員は、身体拘束による弊害を十分に理解している。利用者の安全のために玄関・ユニット間には施錠がしてあるが、管理者は施錠について“安全確保と拘束の違い”を正しく理解するように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業市内で虐待は無いと思っているが、職員の一一人が意識を持って支援していくよう努めている。アンケートを取って意識調査をしたり、外部研修に行き、その内容を社内勉強会を開き学習したりしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに学ぶ機会を持てなかった。機会を見て話し合う時間を持ちたいと思う、実際、現入居者様で該当する方が見えない為意識が薄い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居に対して不安を抱かない様説明して理解頂けるように図っています。ホームで、できる事出来ない事を踏まえてお話をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にお話をさせて頂いております。なかなか。お会いできない事もあります。が、毎月、請求書と一緒に近況報告しております。スタッフも気楽に話せる雰囲気作りに努めて見える。	家族の来訪時や運営推進会議、家族会、電話等で聞き取った意見や要望は、運営に反映させるように努めている。職員全員が誰でも近況報告できるように情報を共有し、手紙や電話も活用して情報提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を聴くように努めています。月1回行うミーティングで、その機会を作っています。	管理者は日頃から意見が言い易い雰囲気作りに努めている。職員の積極的な関わりで、記録の取り方を改善し、現在も更なる改善が行われている。職員からも「良好な関係」と聞くことが出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤めれる様に整備に心掛けていきます。社員。準社員は月二回自己評価を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修に参加して頂く機会を設け、ホームに資料を持ち帰り、勉強会と題して発表していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議に参加するように努めている、又同法人での、グループホーム管理者が集まる時間を設けている、現状の問題点等話し合っている。スタッフ同士が同業者の交流がない為、今後考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気にならせております。ご本人様の言葉やしぐさ行動などから思いを受けとり理解して良好な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで出来る事と出来ない事をご理解いただき、出来る限りのご要望にお応え出来るように努めて、ご安心してご入居頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話からご家族様とご本人様の思いを理解して、必要と思われるサービスを説明して導入に努めている、ホームだけでなく他の施設の説明や資料をさしあげて説明して、ご納得できることを検討して頂けるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開設当初の職員も多数おり、利用者様とは馴染みの関係を保っています。出来る家事を一緒に行ったり会話をしたり、教えられることも多数あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族様等の面会可能であり、外出や外泊、又定期受診はご家族様対応にて、家族の絆を大切にしています。ご本人様に対し、ご家族様が不安と思ってお見えの事は、こちらが察して、伺うようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご協力により、利用者様の友達がみえて毎月食事会に出かける事を20年以上継続されて見える方が見え、ホームに入居されても継続している。外出レクでは車の中から見慣れた景色を見つけ喜ばれる事もあります。	大学の仲間が月1回訪ねて来て、一緒に食事に出かける利用者の送迎を支援している。自宅への外泊や手紙、携帯電話等、馴染みの関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活を共にしている方同志、一緒にいる事が当たり前で安心できる環境が出来ています。相性の悪い方同志も見えますが、職員が介入し治めたり、9人が織りなす毎日が日常になりつつあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、御連絡することは少なくなっているが、永眠された後、御連絡を頂くことも多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿うような生活を目指しています。個別対応はご家族様との相談の上、行う事もあります。意思を伝えることが出来ない方は、ご家族様との話し合いと職員同志のカンファレンスでその方らしい生活を築いています。	余り話さない利用者の思いを把握するために、アセスメントの趣味や特技等から、会話のきっかけ作りをしている。聞き取った情報は「連絡ノート」に記載して職員で共有し、行事計画に盛り込んで実現に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント以後、知りえた情報などは、アセスメント表に書き加えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けを常に忘れず、顔色や表情などから、いつもの状態と違いはないか、申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。常日頃のバイタルチェック等で観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、薬剤師、訪問歯科の方々の専門的な意見を参考に、毎月の職員ミーティングで課題を検討しケアプランに反映させています。	介護計画を意識した支援が行なえるように、個別の具体的な支援、「重点ケアプラン活動」が毎月行われ、日々の介護に活かしている。月1回モニタリングを行い、定期的に見直して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には日々の記録が記され毎日申し送りをしています。ケアの変更に繋がる事項は申し送りノートに書き職員全体に周知させ今後の課題としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々様々な事柄が起こります。前例がない場合でも柔軟な姿勢で対応し今後繋げるように努力しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関にAEDを設置して、回覧板にて設置したことを知らせ、また、壁にある場所等を掲げて、緊急時に使用いただけるようにしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている。情報提供表を希望されるご家族には医師に提出したものと一緒の文面をお渡ししている。	協力医とは信頼関係があり、24時間対応の体制で安心に繋がっている。馴染みのかかりつけ医の受診は基本家族対応であり、必要に応じて情報提供し、さらに家族から情報収集してサービスに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問時ご本人様の状態をお伝えしたり、又スタッフには言えないことなどの、真意を伺ってもらい、ホームで知ることにより、今後のケアに活かしている。日常の中でとらえた情報を訪問看護様に伝えています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは、必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのアンケート調査を行い、その時のご家族様のお気持ちを把握しました。終末期に近づいた時、十分な話し合いを行い、再度確認をし、ご本人様、ご家族様の気持ちやご希望に沿えるよう出来る限りの事をしたいと思っております。	管理者は、医療行為がなく、利用者・家族の意向があれば看取り支援を行なう方針で、今年度1名の看取りを経験した。家族とはその都度話し合い、家族から「良かった」との言葉がある。看取り後にカンファレンスを行い、全員で情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを、今年度も受けたいと思っているが、実施にいたっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、火災、水害の避難訓練を人数が厳しい夜間想定を中心に行っています。運営推進会議を通して地域の方々にも協力をお願いしています。災害備蓄品も準備しております。	防災訓練を年3回(水害・夜間・日中想定)実施し、通報・初期消火・避難訓練をしている。地域の防災訓練には利用者と共に参加し、AEDの設置は地域に広報している。	夜間の災害発生時には地域の協力が不可欠であり、運営推進会議の議題として取り上げ、地域の具体的な協力体制の構築に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃、心がけています。	利用者の誇り・人権を損なわないように、「嫌がることはしない支援」を実践している。職員は、否定はせずに傾聴に心がけ、フランクに会話をしつつも立場をわきまえて支援にあたる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。自己決定が出来る様、無理強いないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。一人一人のペースや体調に合わせてお手伝いやレクに参加して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等御自分で選択して着て頂いている。月に1回、訪問理美容さんが見えて、カット・パーマ・毛染め・顔そり等、本人様希望に応じて自己負担で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握して声掛けにより助けて頂き役割となっている。盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・洗い物・食器拭きなど細分化してお手伝いをしてもらっています。	週3回利用者と共に買い物に出掛け、利用者の力量・要望に合わせて、盛り付け・食器洗い等の役割を担っている。誕生日には希望するメニューを提供し、行事食や外食等の楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく献立をたてて、どのような物を食しているか把握できている。時間に関係なく、水分は、飲みたい時に飲んでいただけるよう、また、少ないようであれば声掛けをしている。ご本人様の状況に応じて食事量や形態を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布パンツを着用頂けるよう、失禁の少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、決めている。定期的な時間を見て声掛けて失禁が無いように心がけている	湿疹・失禁が多い利用者の家族から「布パンツにしてみても」との意見があり、実施したところ尿意を伝えることができるようになった利用者がある。思い込みの支援でなく、その人に合った支援の大切さを知った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水やオリゴ糖の摂取等個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。頑固な便秘には、医療と連携してその方にあった服薬を処方していただいている。牛乳やバナナ等毎朝食に変化を変えて提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間が決まっていますが、個々の希望にそっていないが、1日4名～5名と、時間を気にせずゆったりと入れるように心がけている。	一日おきを基本に、利用者のその日の入浴希望に可能な限り対応している。入浴拒否には無理強いせず、柔軟に対応している。季節感を味わう柚子湯・菖蒲湯等の工夫をして、楽しみ入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。1週間に1回はシーツ交換施行		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず、職員に伝達を行ない、様子観察を促している、又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている、散歩に出かける場所も3カ所あり、ご希望を伺いながら出かけるようにしている。外出レクも月2回は行い、利用者様に行きたいところを聞くこともある。今年の秋は、浜松まで一泊旅行に出かけております。	毎年、利用者の楽しみにしている1泊の旅行に、今年度から家族にも呼び掛けを始めた。日常的には公園・神社・買い物に出かけている。夏場は日課を見直して早い時間に出掛ける等、利用者様に配慮している。様々な機会をとらえ、外出の機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、ご本人様同士の貸し借りが発生しトラブルになりかけたため、それ以後は、お小遣いは事務所管理となる、買い物ツアー等の企画も推進していこうと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族との関係を見極めながら取り次ぐようにしているが、ご本人様が希望する場合は、入居者様の状態に応じて検討している。手紙に関しては、年賀状を書いたり等、季節季節に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、壁飾りを替えたり、毎月ホームの玄関先の飾りを変えている。空気清浄機、温湿度計などを設置して室温に気を配っている。居室玄関前に折り紙などを折って飾り、心和む雰囲気が出るように工夫している。	玄関に入ると、利用者の笑顔の行事写真と金魚たちが出迎えてくれる。食堂・リビングは清潔が保たれ、一角には掘り炬燵のある畳の部屋が、温かさを醸し出している。利用者全員が座れるソファは、調査日も食後のひと時の談笑の場になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ9名座れて、集まれて、TVを楽しんだり、談話されて見える。東側の窓近くに長椅子を置くことにより、外を見ながらひとりの空間を楽しまれたり、時には、ヒミツの話でもされているのか？気の合った同士2人で談話されて見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、出来るだけご自宅でご使用されて頂いた家具などをお持ちいただけるようにお話している。使い慣れた馴染みのあるものを居室に置いて安心して暮らしていただけるようにしています。	冷蔵庫を持ち込み、好みの食べ物を保管したり、絵画の得意な利用者は自作の絵を飾ったり、馴染みの調度品、家族写真、化粧品等、思い思いのものが持ち込まれ、清潔で居心地良い雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように努めている。常に家事など行なう時はスタッフと一緒に声掛けに努め手伝ってもらっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200206		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム真清田		
所在地	愛知県一宮市松降二丁目5番7		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JiyosyoCd=2392200206-004PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年 1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念を、スタッフが目の届くところ(玄関先・タイムカードの所等)に掲げ又申し送り時に復唱することを実施することにより、どのような介護をしていかなければいけないか基本的な物として、スタッフが理解できるようにとこころがけております。また、より良い介護を目指し、もっとケアプランを身近に感じながら日常的な支援が出来るように改革をしております。グループホーム真清田は、外出の機会を月2回以上、季節に応じた行事を計画することにより、入居者様のADLの低下防止や楽しみを待って生活できるように努めております。今年は秋の遠足で、浜松に一泊旅行へ出かけることが出来ました。入居者様の皆さま、本当に喜ばれ、沢山の笑顔を見る事が出来ました。また、慰問の方々を定期的に招くことにより、外部との関わりや生活の質の向上に心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを盛り込んだ理念のもと、申し送り業務で理念の唱和や目に付くところに掲示し、常に意識を持つよう努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩でご近所様と挨拶を交わしたり、喫茶レクではお店の方に車椅子の理解や受け入れをして頂き、積極的に外出を行い地域との繋がりを深めています。町内会行事への参加や、市のつどいの広場に出かけ、地域の方と交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ADLを地域で活用して頂けるよう玄関に表示しました。運営推進会議では、地域の方にテーマを持った勉強会の参加と実際に事業所内の活動を見て頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お一人ずつ、ご意見をうかがっている、今後の取り組みに生かす様に取り組んでいます。参加出来なかったご家族様には、詳細内容を郵送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター様より御案内頂く企画に関しては、積極的に参加して情報提供に努めている。運営に当たりわからない事があれば、役所に出向き確認をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は利用者様の安全を考えると施錠せざるを得ない現状ですが、これを当たり前と思わず、職員は疑問に思うことを話し合い厳しい目で取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業市内で虐待は無いと思っているが、職員の一人一人が意識を持って支援していくよう努めている。アンケートを取って意識調査をしたり、外部研修に行っており、その内容を社内勉強会を開き学習したりしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフに学ぶ機会を持てなかった。機会を見て話し合う時間を持ちたいと思う、実際、現入居者様で該当する方が見えない為意識が薄い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が今後の入居に対して不安を抱かない様説明して理解頂けるように図っています。ホームで、できる事出来ない事を踏まえてお話をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にお話をさせて頂いております。なかなか。お会いできない事もありますが、毎月、請求書と一緒に近況報告しております。スタッフも気楽に話せる雰囲気作りに努めて見える。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を聴くように努めています。月1回行うミーティングで、その機会を作っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの体調や性格・家庭背景などを理解して各スタッフに合った条件で勤めれる様に整備に心掛けていきます。社員。準社員は月二回自己評価を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部研修に参加して頂く機会を設け、ホームに資料を持ち帰り、勉強会と題して発表していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議に参加するように努めている、又同法人での、グループホーム管理者が集まる時間を設けている、現状の問題点等話し合っている。スタッフ同士が同業者の交流がない為、今後考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気にならせております。ご本人様の言葉やしぐさ行動などから思いを受けとり理解して良好な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで出来る事と出来ない事をご理解いただき、出来る限りのご要望にお応え出来るように努めて、ご安心してご入居頂けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話からご家族様とご本人様の思いを理解して、必要と思われるサービスを説明して導入に努めている、ホームだけでなく他の施設の説明や資料をさしあげて説明して、ご納得できる場所を検討して頂けるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開設当初の職員も多数おり、利用者様とは馴染みの関係を保っています。出来る家事を一緒に行ったり会話をしたり、教えられることも多数あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、御家族様等の面会可能であり、外出や外泊、又定期受診はご家族様対応にて、家族の絆を大切にしています。ご本人様に対し、ご家族様が不安と思ってお見えの事は、こちらが察して、伺うようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご協力により、利用者様の友達がみえて毎月食事会に出かける事を20年以上継続されて見える方が見え、ホームに入居されても継続している。外出レクでは車の中から見慣れた景色を見つけ喜ばれる事もあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活を共にしている方同志、一緒にいる事が当たり前で安心できる環境が出来ています。相性の悪い方同志も見えますが、職員が介入し治めたり、9人が織りなす毎日が日常になりつつあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、御連絡することは少なくなっているが、永眠された後、御連絡を頂くことも多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿うような生活を目指しています。個別対応はご家族様との相談の上、行う事もあります。意思を伝えることが出来ない方は、ご家族様との話し合いと職員同志のカンファレンスでその方らしい生活を築いています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント以後、知りえた情報などは、アセスメント表に書き加えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けを常に忘れず、顔色や表情などから、いつもの状態と違いはないか、申し送りやスタッフから今の状態を伺ったり常に状態の把握に努めている。常日頃のバイタルチェック等で観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、薬剤師、訪問歯科の方々の専門的な意見を参考に、毎月の職員ミーティングで課題を検討しケアプランに反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には日々の記録が記され毎日申し送りをしています。ケアの変更に繋がる事項は申し送りノートに書き職員全体に周知させ今後の課題としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々様々な事柄が起こります。前例がない場合でも柔軟な姿勢で対応し今後繋げるように努力しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関にAEDを設置して、回覧板にて設置したことを知らせ、また、壁にある場所等を掲げて、緊急時に使用いただけるようにしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供を医師に提出することにより、ホームでの状態を的確に把握して頂くよう、心がけている、情報提供表を希望されるご家族には医師に提出したものと一緒に文面をお渡ししている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、訪問時ご本人様の状態をお伝えしたり、又スタッフには言えないことなどの、真意を伺ってもらい、ホームで知ることにより、今後のケアに活かしている。日常の中でとらえた情報を訪問看護様に伝えています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当のソーシャルワーカーに、情報を伺い、長期入院になる場合は、退院時、担当者会議を開いていただけるよう、ご依頼している。施設サマリーや退院時のサマリーは、必需となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのアンケート調査を行い、その時のご家族様のお気持ちを把握しました。終末期に近づいた時、十分な話し合いを行い、再度確認をし、ご本人様、ご家族様の気持ちやご希望に沿えるよう出来る限りの事をしたいと思います。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを、今年度も受けたいと思っているが、実施にいたっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、火災、水害の避難訓練を人数が厳しい夜間想定を中心に行っています。運営推進会議を通して地域の方々にも協力をお願いしています。災害備蓄品も準備しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃、心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様がお気持ちを表明出来る様な、人間関係の維持に努めている。自己決定が出来る様、無理強いないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りで対応できるように努めています。一人一人のペースや体調に合わせてお手伝いやレクに参加して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等御自分で選択して着て頂いている。月に1回、訪問理美容さんが見えて、カット・パーマ・毛染め・顔そり等、本人様希望に応じて自己負担で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握して声掛けにより助けを頂き役割となっている。盛り付け・お盆拭き・食卓拭き・洗い物・食器拭きなど細分化してお手伝いしてもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく献立をたて、どのような物を食しているか把握できている。時間に関係なく、水分は、飲みたい時に飲んでいただけるよう、また、少ないようであれば声掛けをしている。ご本人様の状況に応じて食事量や形態を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっていただいております。週1回口腔衛生に歯科医の往診があり希望者は、受けてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、布パンツを着用頂けるよう、失禁の少ない入居者様に関しては試みている。パットの種類の検討も日頃の状態を見て、決めている。定期的な時間を見て声掛けて失禁が無いように心がけている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水やオリゴ糖の摂取等個々の状態に応じて予防に取り組んでいる。頑固な便秘には、医療と連携してその方にあった服薬を処方していただいている。牛乳やバナナ等毎朝食に変化を変えて提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間が決まっていますが、個々の希望にそっていないが、1日4名～5名と、時間を気にせずゆったりと入れるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の部屋の為、夜にひびかない程度の休息は、いつでも自己の居室で休めるようになっている。1週間に1回はシーツ交換施行		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時は、必ず、職員に伝達を行ない、様子観察を促している、又、前もって調剤薬局と連携をとり、どのような副作用が起こるか等は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常日頃、利用者様の役割・楽しみごとを追及して、提供できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前、出来る限り散歩に出かけるように努めている、散歩に出かける場所も3カ所あり、ご希望を伺いながら出かけるようにしている。外出レクも月2回は行い、利用者様にいきたいところを聞くこともある。今年の秋は、浜松まで一泊旅行に出かけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、ご本人様同士の貸し借りが発生しトラブルになりかけたため、それ以後は、お小遣いは事務所管理となる、買い物ツアー等の企画も推進していこうと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族との関係を見極めながら取り次ぐようにしているが、ご本人様が希望する場合は、入居者様の状態に応じて検討している。手紙に関しては、年賀状を書いたり等、季節季節に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、壁飾りを替えたり、毎月ホームの玄関先の飾りを変えている。空気清浄機、温湿度計などを設置して室温に気を配っている。居室玄関前に折り紙などを折って飾り、心和む雰囲気が出るように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ9名座れて、集まられて、TVを楽しんだり、談話されて見える。東側の窓近くに長椅子を置くことにより、外を見ながらひとりの空間を楽しまれたり、時には、ヒミツの話でもされているのか？気の合った同士2人で談話されて見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、出来るだけご自宅でご使用されて頂いた家具などをお持ちいただけるようにお話している。使い慣れた馴染みのあるものを居室に置いて安心して暮らしていただけるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適宜 手すりなどを設け、安全に歩行できるように努めている。常に家事など行なう時はスタッフと一緒に声掛けに努め手伝ってもらっている		